

網走水試ミニレター

No. 112 2023年5月11日

- 新任の畑山と申します。今後ともよろしくお願い申し上げます。
- さて、年度最初はメンバー紹介が恒例となっているこのミニレターですが、本年度はまだメンバーが揃っておりませんので、こちらは次号とさせていただきます、今回は、網走水試が研究課題として取り上げてきた魚種についてご紹介します（私自身の勉強のようですが）。
- 表1に過去10年分の年度別魚種別の研究課題の設定状況を示しました。一概に努力量を表すものではありませんが、課題数が5課題以上の場合は●を、1課題以上5課題未満の場合は◎を、1課題の場合は○を、それぞれ記載しております。

表1 網走水試の年度別魚種別課題設定状況（H25～R4、課題実施計画書より）

魚種	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
エゾバフンウニ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
マナマコ	○	○								
ホタテガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ホッキガイ						○	○	○		
アサリ						◎	◎	○	○	
ヤマトシジミ	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ミズダコ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ケガニ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ホッカイエビ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
マダラ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
スケトウダラ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ニシン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ホッケ	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
キチジ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
クロガシラガレイ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
マガレイ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
サンマ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サバ			○	○						
ブリ		○	○	◎	○	○	○	◎	○	○
サケ	○	○	○	○			○	○		
ワカサギ				○	○	○	○	○	◎	◎
シラウオ				○	○	○	○	○	○	○
ニジマス（養殖）						○	○	○	○	○

●：5課題以上、◎：1課題以上5課題未満、○：1課題

- 最重要種であるホタテガイには、調査研究部、加工利用部あわせ、各年度、常に5課題以上の取り組みがあります。
- 調査研究部では主要魚種であるマダラ、スケトウダラ、ホッケ、ケガニ、ミズダコ等の資源量推定や生態調査を行いながら、ニーズに即したホッキガイやアサリ等の増殖手法の開発に取り組んでおります。また、H28年度以降、旧道東内水面室の業

務を継承し、ヤマトシジミ、ワカサギ、シラウオ等の内水面魚種も担当しております。

- 加工利用部では常にホタテガイの加工利用方法の開発・最適化に取り組みながら、ブリ、サケ、ニジマス（養殖）、ヤマトシジミ等についても、付加価値向上に努めております。
- 前述のとおり、ホタテガイには、各年、多くの課題を設定しております。私どもの研究課題は評価の際、その調書にキーワードを記入することとしており、表2には、この間の網走水試のホタテ関連課題のキーワードをピックアップしました。漁場の可視化、食害防除、高度利用、品質安定化などに関連した単語が多く見うけられます。
- 以上、雑ばくで大変恐縮ですが、この間の私どもの研究の概観など、ご理解の一助となれば幸いです。

（網走水試 畑山）

表2 網走水試ホタテ関連課題のキーワード（H25~R4、研究課題評価調書より）

ホタテガイ○●	成長○●	動画調査法○	海底可視化○
地まきホタテガイ○●	生残率○	画像解析○	資源量推定○
養殖ホタテガイ○	親子関係○	バイオテレメトリー○	底質判別○
放流ホタテガイ○	生殖周期○	超音波テレメトリー○	自動検出○
地まきホタテガイ漁業○	管理工程○	音響通信○	採苗安定化○
アカボヤ○	餌料環境○●	免疫染色法○	見える化○
ニッポンヒトデ○	漁場底質○	データロガー○	システム化○
マヒトデ○	大時化○	垂下○	自動判別○
マガキ○	曳網距離○	施設振動○	モニタリング○
オホーツク海○	曳網軌跡○	漁場生産推定プロセス○	自動計測○
根室海峡○	捕食行動○	低温加熱●	予報○●
冷凍●	カロテノイド○	トリメチルアミン●	被害推定○
乾燥食品●	天然採苗○	におい●	成長促進○
ホタテウロエキス●	人工種苗生産○	遊離アミノ酸●	抑制●
ホタテ外套膜エキス●	中間育成○	砕け●	簡易測定●
乾貝柱●	海洋環境○	色調●	調味料●
外套膜●	食感●	亀裂●	
貝柱●	品質●	褐変●	
	乾燥方法●		

○：調査研究部の課題、●：加工利用部の課題